

三島市の小中学校におけるコミュニティ・スクールの導入と 学校支援員の配置

アナ： 「市長が語る 2020 三島」第13回の今日は、「三島市の小中学校における、コミュニティ・スクールの導入と学校支援員の配置」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお祈いします。

市長： よろしくお祈いします。

アナ： 今年度から新たにコミュニティ・スクールを導入されるそうですが、このコミュニティ・スクールとは何でしょうか。

市長： はい。コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会という会議体を設置した学校のことです。学校運営協議会は、PTAを代表する方や地域住民を代表する方、校長先生をはじめとした教職員が委員となり、学校運営や教育課程の編成などについて、対等の立場で協議していきます。例えば、地域の特色を生かした運動会、地域と学校が連携した防災対策など、地域と学校が協働で行う活動などについて協議していくことが考えられます。コミュニティ・スクールとなることで、これまで以上に、学校運営に地域の声が積極的に生かされ、地域と一体となって特色ある学校づくりを進めていくことにより、地域とともに歩む学校づくりの推進につながります。

アナ： コミュニティ・スクールを導入することで、どんな効果が期待されますか。

市長： はい。社会全体が急速に変化して、複雑化、多様化する中、子どもたちや学校は、いじめ問題や不登校問題、共生社会に向けた取組等、様々な課題を抱えています。コミュニティ・スクールを導入することで、学校と保護者、地域の皆様が、様々な課題に対し、それぞれの立場や見方から、その解決の方策を考え、協議することが可能となります。それにより、これまで解決が困難であった課題についても、地域と学校が一体となって、解決の方策を見出すことができるようになります。一つ一つの課題をしっかりと解決していくことで、未来を担う子どもたちの豊かな学びを保障し、三島市の学校教育の基本理念である「豊かな感性と確かな学力を持つ、心身ともに健康な子どもの育成」の実現につなげることができると考えています。また、地域と一体となった学校づくりをすることで、子どもたちに、地域の皆様への感謝の気持ちや地域に対する愛情を育むことができ、将来の地域社会の担い手を育成することにもつながるものと考えています。

アナ： 今年度、コミュニティ・スクールを導入する学校は何校ですか。

市長： はい。今年度は小学校2校、中学校1校をモデル校として導入し、来年度以降も段階的に導入を予定しており、令和4年度までに全ての小中学校での導入を目指しています。

アナ： 次に、今年度から、小学校の学校支援員として看護師と介助員が配置されると伺いましたが、学校支援員について教えてください。

市長： はい。三島市では特別な教育的支援を必要とする子どもが円滑に集団生活へ適応できるよう、小学校 1 年生全クラスと学校の実情に応じて小学校 2 年生から中学校 3 年生までに、合わせて支援員 54 人を配置するとともに、医療的ケア等を必要とする児童生徒を支援するため、今年度、新たに看護師 2 名と介助員 1 名を配置し、学習環境の充実を図っていきます。

アナ： それぞれの子どもに応じた学習環境が整うことは安心ですね。

また、今年度から不登校問題への新たな対応があるとお聞きしましたが。

市長： はい。これまでも、様々な事情により、学校に登校することが難しい子どもたちの学習サポートなどに対応するため、生涯学習センター内に「ふれあい教室」、いわゆる適応指導教室を設置していますが、今年度は、新たに中郷文化プラザ等にも「ふれあい教室」を設置し、子どもたちの多様な学び方を支援する体制の充実を図っていきます。

アナ： 三島市では子どもたちのために、地域と一体となった学校づくりが進められ、様々な支援も充実していくということですね。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。